



むかし（旧暦が使われていたころ）は、7月から9月までが「秋」とされており、真ん中に当たる8月は、「仲秋」とよばれていました。この月の15日（十五夜）の夜に出る満月は、「仲秋の名月」と言われ、収穫を祝ってお祝いをし、月見をする風習がありました。これは、平安時代に中国から伝わり、各地に広まったそうです。

秋の収穫の始まるころとも重なり、お月見には、収穫祭の意味もこめられています。現在では、9月後半から10月初めごろになります。

今年の十五夜は、9月24日です。



あすなろ書房
「和の行事絵本」より

秋分の日 9月23日

「先祖を敬い、亡くなった人々を偲ぶ日」として制定されました。この日は昼と夜の長さが同じになり、この日を境に昼間がだんだん短くなります。この日ははさんで一週間を“彼岸”といい、お墓参りなどをして先祖を祭る習慣があります。

お知らせ

7月に開催いたしました納涼会の収益の一部をみどりの会会長様のご了解を頂き、この度の土砂災害で被害を受けられた、口田学区、口田東学区の社会福祉協議会へ寄附させて頂きました。ご報告させて頂きます。

心と心で会話する

今年の夏は、猛暑という言葉通り、本当に暑い日が続きました。子どもたちは、プールあそびはもちろん、泥んこ、ボディペイントなど涼を取り込む夏のあそびも十分楽しんだのですが、幼児さんは、園庭のスイカやトマトの収穫をしたり、ちょうちやせみなどの虫探しも楽しみました。小さいうちは、汗をかくということも大切ですので、熱中症にかからないよう気をつけながら、戸外でのあそびも満喫しました。地域のお友だちにもプールを開放し、ホームページで「暑い夏、すいこうに集まれ!」と呼びかけたところ、「初めて来ました。」という親子もたくさんおられ、暑いけれどにぎやかな夏でした。

さて、今年度初めの園長研修で京都大学名誉教授 鯨岡峻先生のお話を聞く機会がありました。鯨岡先生はまず、「あなたの園は、子どもの心の育ちを支える園となっていますか」と問いかけられました。改めて、そう聞かれると、少し考えてしまいました。

私は、子どもたちと関わる時何より大切にしていることは、「いつもあたたかなまなざしで子どもたちを見守り、その子の思いに寄り添い、気持ちを汲み取ること」です。どんなに小さな子どもでも泣いている理由はあるはず。嫌だといっている理由もあるはず。「言葉にできない子どもの心の声を聞きたい」「その思いに寄り添いたい」と思っています。では、「子どもの思いに寄り添い、心の声を聞く」ということはどういうことなのか、いろいろな場面を思い出してみました。そのひとつが、先日1歳児うさぎ組さんでの出来事です。うさぎ組の子どもたちは、絵本が大好きで、なかでもMくんのお気に入りの絵本は、たくさんの卵からかめさんが生まれたり、大きな卵から恐竜が生まれたりする「たまごのあかちゃん」という絵本です。その日は、お昼寝の前に先生がその絵本を持ってきてくれました。それを見たMくんは、私の手をつかんで「一緒に絵本を見よう」と誘ってくれました。私の心には、そう聞こえたのです。そして、卵が割れて、中から動物が出てくるたびに私のほうを向いて笑いかけます。私はきっと「どう？おもしろいでしょ!」と言っているのだと思いました。私も「かめ

さん、生まれたね!」と思いきりの笑顔と共に心の声で応えました。ページがめくられるたびに私とM君は、言葉はないけれど、心と心で会話をしました。また、別の日ですが同じうさぎ組さんのHくん。きらきら光るTシャツを着ていました。朝、お部屋に入ると、Hくんは、私のほうを見て、にこにこ笑いながらおなかをさすっています。「Tシャツを見て!」と言っているのだと思い、またまた「きらきらだね。かっこいいよ。」という心の声と思いきりの笑顔で応えました。Hくんは満足そうに、おままごとのコーナーで遊び始めました。この瞬間、自己満足かもしれませんが、私とHくんは、「目と目で気持ちを伝えあい、心と心で会話をした。」と思いました。鯨岡先生は「この何とも言い難い目と目を合わせ、心で会話をする空間が大切なんだ。」と話されています。こういった場面は、保育の中でもたくさんあることなのです。登園したとき、必ず事務室に寄ってくれるSくん。お喋りが上手で、たくさんお話してくれますが、「ぼく、今日も来たよ。」という思いが込められているのだと思います。目と目を合わせると心の声が聞こえてくるようです。そのとき、私たち保育者は、何とも言えない喜びで心がいっぱいになります。きっと子どもたちも同じでしょう。こういった経験を積み重ねることで、子どもたちは、「自分は愛されている」「大切に思われている」という気持ちになり、自己肯定感が育まれていくのではないかと考えています。そして、それが、「心を育てている」ということなのだと思います。目に見えないものを育てていくことは、大変ですが、何より大切なことです。自信をもって「すいこうは、子どもの心の育ちを支える園となっています。」と言える職員集団となるよう、これからも精進してまいります。

まだまだ残暑厳しい日が続くようです。保護者の皆さんには、引き続き、「早寝、早起き、朝ごはん」などに気をつけていただき、園では、お子さんの体調に配慮しながら、楽しく過ごしていきたいと思えます。

園長



敬老の日は昭和41年から国民の祝日（9月15日）に加えられた祝日です。現在では、9月の第三月曜日に設定されています。

「多年にわたって社会に尽くしてきた老人を敬愛し、長寿を祝う日」だけではなく、すべての国民が高齢福祉について、関心と理解を深める日であると言えます。

園では、子どもたちに「おじいちゃん、おばあちゃんがいたから、お父さんお母さんが生まれ、自分たちがいるんだ」ということを伝えます。

日頃からお年寄りを尊敬し、大切にすることを伝えます。



保育士のつぶやき

4か月のRちゃんがミルクを飲んでいる様子を見ていた保育士。「このなんでもないような液体が、Rちゃんの命をつないでいるのよね。」とつぶやきました。本当にそうです。そう思うと、「いっぱい飲んでね。」と思いながらミルクの作り、目と目を合わせて「おいしいね」と語りかけながら飲ませてあげる。当たり前ですが、命をつなぐ大切な行為である事を改めて感じたのです。

